

森本 あんり

全世界で2500もの

言語に翻訳されている

「永遠のベストセラー」

聖書。日本でも、明治以

来ほぼ30年ごとの周期で

新しい訳が登場している

。今回の『聖書協会共

同訳』は、宗教改革50

0周年を旨指して進めら

れた訳業で、まさに日本

の新時代にふさわしい聖

書である。

でも、どうしてそんな

に頻繁に改訳されるの

か。聖書の言葉は、心に

刻むものである。年配の

方々なら「文語訳で覚え

たものが、最近の学生な

ら「新共同訳」で覚えた

ものが聖書である。せつ

かくなじんだ頃にまた新

しいのが出たら、混乱し

共同訳聖書 31年ぶり新訳

聖書は変化し続ける

てしまわないだろうか。

実は、聖書は今も変化

し続けている。研究の進

歩により翻訳の底本自

体も少しずつ改訂される

し、日本語のあり方も時

代につれて変わる。かつ

て「はしため」と訳され

た言葉は、女性研究者た

ちの意見で「仕え女」に

なった。

原典と訳文の間をつな

ぐ翻訳理論も進歩する。

前回採用された「動的等

価」論では、時代や文化

の違いを反映させて大胆

な意訳がなされたため、

現代日本人によくわかる

ようになったが、原文か

らは距離ができてしまっ

た。日本語では人称が

「あなた」「お前」など多

様だが、これもあまり踏

み込みすぎると原意が損

なわれる。

それにしても、前回の

訳が『新共同訳』で、今

回の最新版が『共同訳』

というのはどういうわけ

か。訳業がカトリックと

プロテスタントの共同作

業になったのは前回から

だが、今回は先行して出

された試訳版に批判が多

かったため、「新」をつけ

て再発行された。今回は

特に聖書協会の主導によ

る訳であることを強調し

てつけられた名称だそう

である。

こうした経緯を見て

も、聖書がイスラム教に

おけるコーランのような

絶対不可侵の文書でない

ことが理解できる。な

お、従来版の聖書も引き

続き販売されるし、来年

にはウェブ版や点字聖書

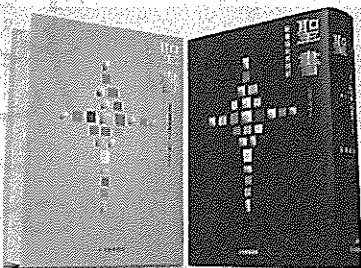
も順次刊行される予定と

のことである。

新しい訳は「引照・注

付き」である。「引照」と

聖書協会共同訳聖書。
左は旧約聖書続編付き



は、聖書内の関連箇所を
欄外に記したもののだが、
これは「聖書は聖書自身
を解釈する」という伝統
的なプロテスタント神学
の原理に基づいた工夫で
ある。わからない箇所
に出くわしたとき、解説や
注解を読まなくとも、聖
書の別の箇所を読めば理
解できる、という考え方
である。もちろん実際に
は、「注」も大いに役に立
つのだが。

本紙読者にお伝えして
おきたい。聖書は、奥の
ところ鋭い宗教批判と社
会正義の書でもある。試
しに旧約のアモス書など
をご覧ください。

もりもと・あんり
国際基督教大学教
授。著書に「反知性
主義」ほか